

食育に貢献するデータインフラ「pool」

レコテック(株)は、都市の廃棄物をデータで資源に変える日本唯一の 資源循環データインフラ企業です。自治体・商業施設・工場・イベントなどの廃棄物排出量をリアルタイムで可視化し、循環型サプライチェーンを構築する事業ソフト「pool」を中核事業として展開しています。この「pool」とは、“排出 → 回収 → 調達”の3つの現場をひとつのデータ基盤でつなぐ、日本唯一の資源循環インフラです。都市の廃棄物を「誰が・どこで・何を・どれだけ」排出しているかを一次データ（実測値）で記録し、静脈物流・電子マニフェスト・Scope3・排出量・再生材調達までを一気通貫で管理する“都市の循環を動かす OS（オペレーティングシステム）”と言えます。以下、検索結果に基づき体系的に整理します。

1. pool の正体：資源循環のデータインフラ

pool は、廃棄物の排出・回収・調達をひとつのデータ基盤でつなぐ資源循環インフラ。都市の廃棄物管理に関わるあらゆる情報を一元化し、排出量の計量 → 回収 → マニフェスト → Scope3 → 再生材調達までを自動化します。

2. pool が解決する課題（都市の“情報の断絶”）

都市では、廃棄物情報が、紙・Excel・事業者ごとのシステムに分断されており、自治体・事業者・メーカーが同じデータを共有できないという構造的課題があります。レコテック(株)は、これを「情報の断絶」と呼び、pool によって都市全体の資源データを一元管理 します。

3. pool の3つの機能（排出・回収・調達）

① Discharge（排出）— 資源を出す

- ・ テナント・部署・建物・街区単位で計量
- ・ スマホ・タブレット・PC でデータ化

1 回の計量がマニフェスト・テナント按分・ESG 開示へ同時展開される

② Collect（回収）— 資源を運ぶ

- ・ 朝の配車から夜の日報まで一元管理
- ・ 空振り・積み残しを事前に解消
- ・ 荷下ろしと同時にマニフェスト B 票自動発行
- ・ JWNET 連携も自動化

③ Procure（調達）— 資源を調達する

- ・ PCR 材調達と自主回収を同じ基盤で管理
- ・ 再生材使用義務（CRMA/ELV）や CSRD の根拠データを自動生成
- ・ 再生材のトレーサビリティを担保

以下、p-ogiso 事業（PP/PE 水平リサイクル・自治体連携・静脈物流）に直結する形で、事業概要を体系的に整理します。

◆ レコテック(株)の事業概要

資源循環のデータインフラ「pool」を運営する Resource Tech Startup。

都市の廃棄物を「誰が・どこで・何を・どれだけ」排出しているかをデータ化し排出 → 回収 → 調達 → 再生材化までを一気通貫でつなぐ。

◆ 1. 中核事業：資源循環データインフラ「pool」

● 排出量のリアルタイム可視化

- IC カード認証
- 計量器連携
- 電子マニフェスト自動連携
- 排出者別の排出量を正確に記録

● 導入領域

- 政令指定都市（自治体の管理インフラとして採用）
- 商業施設（例：340 テナントの排出量を個別計測）
- Tier1 自動車部品メーカー（全 8 工場で稼働）
- 大規模オフィス・ホテル・イベント

● 特許取得済みの発生量予測

排出量の予測により、再生材調達のポートフォリオ最適化を実現。

◆ 2. 「資源を出す」事業者向けサービス

- 廃棄物計量管理システム
- 排出量の正確なデータ化
- 従来の約 1/5 のコストで導入可能（DX 化）

◆ 3. 「資源を調達する」メーカー・商社向けサービス

- 排出元と直接つながる調達プラットフォーム
- 発生場所・種類・量をマップで可視化
- Scope3 Category1（原材料調達）CO₂排出量の可視化

◆ 4. 国産 100%PCR 材「pool resin」

「pool resin」とは、レコテック㈱が提供する“国産 100%の PCR（Post-Consumer Recycled）材”です。

- pool でトレーサビリティ管理・製造時の CO₂排出量を最大 77%削減
- 物流コスト削減・例：RISING SUN ROCK FESTIVAL のごみ袋に採用

◆ 5. 行政・企業向け資源循環コンサルティング

- WBCSD の CTI に基づくサーキュラリティ評価
- 戦略策定・実行支援
- UNIDO 技術アドバイザー
- メタン発酵施設建設支援
- 大規模イベントの環境対策（ap bank fes など）

◆ 6. 市民向けサービス「POOL ME」

- 市民の資源回収ステーションを可視化
- 自治体の焼却量削減に寄与

◆ 7. 自治体との連携実績（特に横浜市）

- 横浜市 1,200 拠点の廃棄物管理 DX を試験導入 → 本格導入
- みなとみらい地区のサーキュラリティ評価算定支援

◆ 8. 企業情報

- 所在地：東京都千代田区九段南 1-5-6 リそな九段ビル 5 階
- 設立：2007 年 5 月 9 日・代表者：野崎 衛・従業員数：7 名（2026 年時点）
- 業種：廃棄物処理・リサイクル × データインフラ

◆ p-ogiso 事業との接続ポイント（重要）

p-ogiso 事業（PP/PE 水平リサイクル × 静脈物流 × 学校給食 × 港湾）とレコテックは、極めて高い親和性を持っています。

● 1. PP/PE 排出量の「可視化」

学校給食・病院・食品工場などの排出量を IC 識別 × 計量 × データ化できる。

● 2. 港湾・臨海部の静脈物流との接続

横浜市 1,200 拠点のデータを持つため、港湾部の再資源化事業者とのマッチングが可能。

● 3. 再生材（PCR 材）を「国産 100%」で供給

p-ogiso の PP/PE 水平リサイクルモデルの再生材トレーサビリティ基盤として利用可能。

● 4. 自治体導入実績

p-ogiso が進めている「学校給食 × 環境教育 × リサイクルモデル」の自治体導入において、レコテックの pool は“行政仕様に採用されるレベル”の実績を持つ。

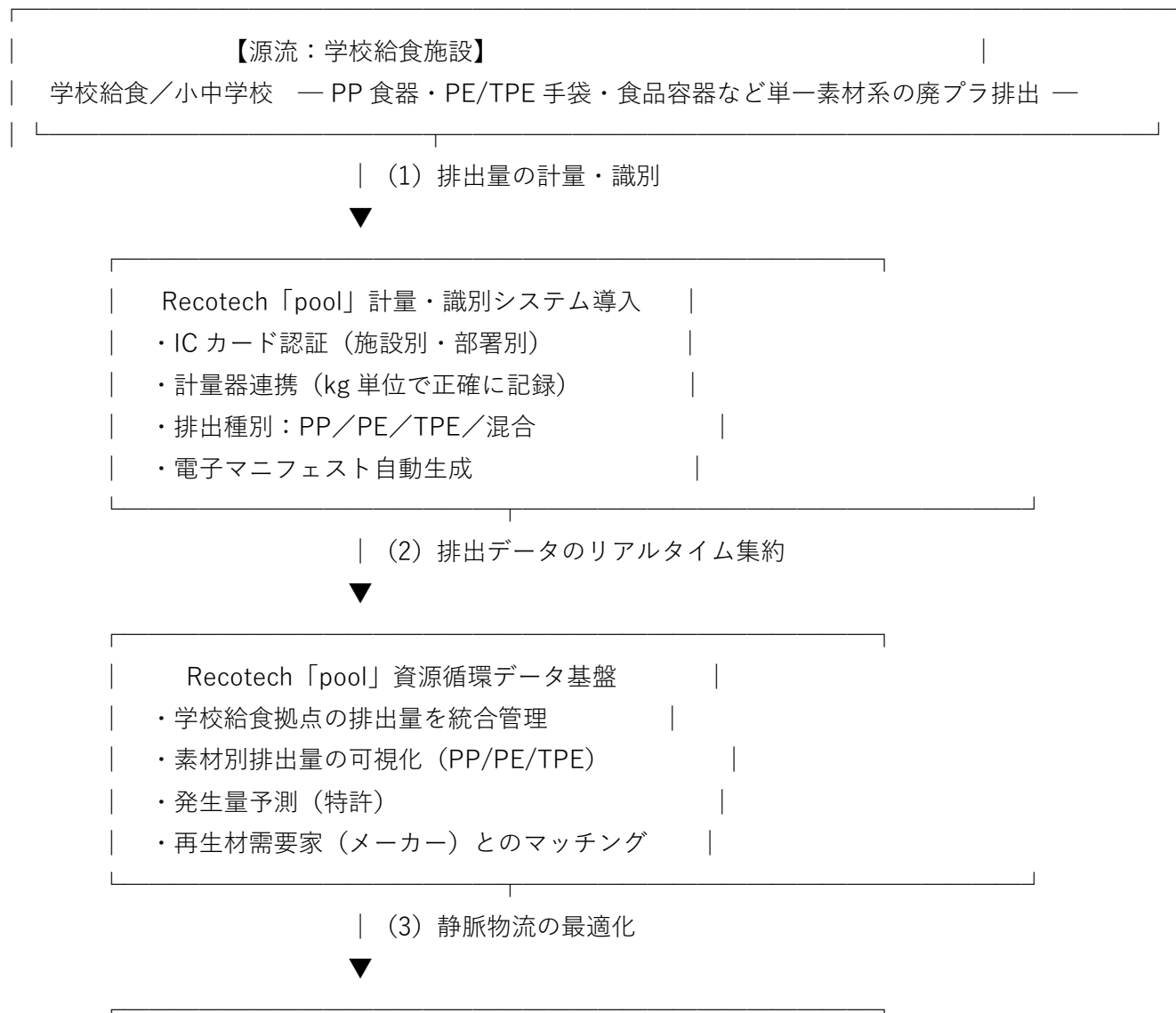
◆レコテック × PP/PE 水平リサイクルの協業モデル図

行政（自治体）向けに提出できるレベルの「レコテック × PP/PE 水平リサイクル協業モデル図」を p-ogiso 事業構造に完全最適化した形で作成しました。

行政が一目で理解できるよう流れ・役割・データ連携・CO₂削減効果・地域循環の構造を図式化しています。

p-ogiso 事業とこの資源循環データインフラ「pool」を組み合わせた自治体導入モデルの完成形です。

◆ レコテック × PP/PE 水平リサイクル 協業モデル図（行政向け）



静脈物流（港湾・臨海部）との連携	
・港湾部の再資源化事業者へ集約輸送	
・ルート最適化（排出量データ × 物流）	
・CO ₂ 排出量の削減（Scope1/Scope3）	

（4）再生材化（PP/PE）



PP/PE 水平リサイクル（p-ogiso 事業）	
・洗浄 → 粉碎 → ペレット化	
・国産 100%PCR 材「pool resin」へ統合可能	
・再生材の品質トレーサビリティ（排出元まで）	

（5）動脈産業へ供給



動脈産業（メーカー・自治体調達）	
・学校給食用 PP 商品の再生材化	
・自治体の防災備蓄（ブルーシート等）	
・ホテル・病院の PE 手袋の再生材化	

（6）地域循環の完成



【地域循環モデル】 廃プラ → 再生材 → 製品 → 学校給食利用 → 再回収	
・自治体の焼却量削減（CO ₂ 削減）	
・学校・市民への環境教育（循環の見える化）	
・地域の循環経済（Circular Economy）形成	

学校給食 × pool 導入シナリオ（自治体向け）

◆ 目的（行政が最も重視するポイント）

- ・学校給食で発生する PP 食器・PE/TPE 手袋・食品容器等の廃プラ排出量を正確に把握
- ・排出量データをもとに 水平リサイクル（PP/PE）を学校給食で実現
- ・焼却量削減・CO₂削減・環境教育・循環型調達 を同時達成
- ・将来的には 市内全公共施設（病院・福祉施設・庁舎）へ拡張可能

◆ 学校給食 × pool 導入ステップ（行政向けの標準プロセス）

以下は学校給食が実際に採用する流れに合わせた技術導入プロセスです。

1. 学校給食の排出ポイントを調査する

Start Here

PP 商品・PE/TPE 手袋・食品容器など、排出される素材と量を把握する。

- ・給食室内の排出ポイント（洗浄室・調理室・包装室）を確認
- ・PP/PE/TPE など素材別に排出量の概算を取得

- 既存の廃棄物収集ルート・頻度を把握

2. pool 計量器・IC 識別の設置計画を作成

Recommended

排出量を正確に計量し、学校給食施設別に識別できる状態を整える。

- 計量器の設置位置を決定（排出動線に沿って配置）
- IC カードで「学校別」排出量を識別・電子マニフェスト連携の設定

3. 排出量データを pool にリアルタイム集約

素材別排出量が自治体のダッシュボードに自動集約される。

- PP/PE/TPE の排出量が自動で記録
- 日次・週次・月次で排出量を可視化・排出量の変動を AI が予測（特許技術）

4. 静脈物流（港湾・臨海部）と連携し回収ルートを最適化

Logistics

排出量データを使い、回収ルート・頻度を最適化する。

- 港湾部の再資源化事業者へ集約輸送・回収頻度を排出量に合わせて最適化
- CO₂排出量を削減（Scope1/3）

5. PP/PE 水平リサイクル工程へ投入

p-ogiso 事業による再生材化プロセスに接続する。

- 洗浄 → 粉砕 → ペレット化
- 再生材の品質を排出元までトレーサブルに管理・国産 100%PCR 材として自治体調達に活用

6. 学校給食の循環モデルとして運用開始

Circular

排出 → 回収 → 再生材 → 学校給食利用の循環を自治体内で完結させる。

- PP 商品・PE 手袋を再生材で再調達
- 学校で循環教育（排出量の見える化）・焼却量削減・CO₂削減を自治体の成果として公表

◆ 導入後の運用体制（自治体が理解しやすい整理）

■ 小中学校の給食室

- 排出量の計量・素材別分別（PP/PE/TPE）・IC カードによる排出識別

■ レコテック（pool）

- 排出量データの集約・AI による排出量予測
- 静脈物流の最適化・再生材のトレーサビリティ管理

■ p-ogiso（PP/PE 水平リサイクル）

- PP/PE の再生材化・港湾部の再資源化事業者との連携・再生材の供給（学校給食用 PP 商品など）

■ 自治体（教育委員会・環境局）

- 導入判断・予算化・公共施設への展開・環境教育・循環型調達の推進

◆ 行政が評価する導入効果（定量化できる指標）

✓ CO₂削減

- PP/PE の焼却量削減
- 静脈物流の最適化による燃料削減・再生材利用による製造時 CO₂削減（最大 77%）

✓ 廃棄物処理費の削減

- 回収頻度の最適化・素材別分別による処理単価の低減

✓ 環境教育効果

- 学校ごとの排出量が可視化される・子どもが循環の仕組みを理解できる

✓ 循環型調達の実現

- PP 商品・PE 手袋を再生材で再調達・自治体の「循環経済モデル」として公表可能

◆ 行政が最も知りたい「導入予算の考え方」（※自治体向けの標準的な説明）

- 初期導入費：計量器・IC 識別・pool 設定
- 運用費：データ管理・静脈物流最適化
- リサイクル費：PP/PE 再生材化（p-ogiso の事業）
- 調達費：再生材製品の公共調達（PP 商品など）

→ 総額は「廃棄物処理費の削減分」で相殺可能 → 学校給食法の衛生管理・環境教育の目的条項と整合

→ 自治体の循環型調達（グリーン購入法）に適合

◆ 千代田区を起点とした都市型循環モデル（案）

1. 千代田区が「都市型循環モデルの起点」になる理由

千代田区は、都市循環モデルの実証において全国でも最適な条件を持つ。

- 学校数が少なく、素材調査・排出量把握が極めて速い
- 昼間人口が日本最大級（企業・省庁・大学）で、社会的注目度が高い
- 環境局・教育委員会が連携しやすい行政構造
- レコテック（Recotech）が千代田区に本社を置く
- 東京都栄養士会（栄養士養成大学）への接続が最短距離

つまり、千代田区は「都市型循環モデルの最小単位」かつ「最大の発信力」を持つ。

◆ 千代田区モデルの「行政向け価値」

① 焼却量削減（CO₂削減）

- PP/PE は焼却時の CO₂排出が大きい
- データ化により排出量を正確に把握・再生材化により焼却量を大幅削減

② 循環型調達（グリーン購入法）

- 学校給食用 PP 商品を再生材で再調達
- 区内企業の備品を再生材化・東京都の防災備蓄にも接続可能

③ 環境教育（区の強み）

- 千代田区は教育委員会の機動力が高い
- 子どもが「自分たちの食器が循環している」ことを理解できる
- 区民への発信力が大きい（企業・省庁・大学が集中）

④ 都市型モデルとして全国展開可能

- 千代田区は「都市の最小単位」・このモデルは政令市・中核市にそのまま移植可能
- 東京都栄養士会 → 全国栄養士会への展開が容易

◆ 千代田区モデルの「全国向け価値」

レコテック

- 自治体の排出量データを統合・都市循環の可視化モデルを全国展開
- 再生材調達のプラットフォーム拡大

p-ogiso（PP/PE 水平リサイクル）

- 都市型の素材排出データを獲得・OEM 連携の根拠となる「素材量の証明」

- ・ 港湾・臨海部の静脈物流ネットワークを拡張・国内製造の PE/TPE 手袋普及に直結

◆ 千代田区モデルの「導入ステップ」

STEP 1：千代田区教育委員会と素材調査の合意

- ・ 小中学校数（12校）が少ないため、1～2 か月で完了
- ・ PP/PE/TPE の排出量を把握

STEP 2：Recotech「pool」導入（学校給食施設）

- ・ 計量器・IC 識別を設置・排出量データをリアルタイム化

STEP 3：静脈物流ルートの設計

- ・ 千代田区 → 臨海部（港湾）・PP/PE 専用ルート化

STEP 4：再生材化（p-ogiso 事業）

- ・ PP/PE の水平リサイクル・再生材の品質管理

STEP 5：公共調達（区内循環）

- ・ PP 商品の再生材化・区内企業の備品調達・東京都の防災備蓄へ接続

STEP 6：環境教育・区民発信

- ・ 学校ごとの排出量ダッシュボード・区民向け循環ステーション「POOL ME」
- ・ メディア露出（千代田区は効果大きい）

◆ 千代田区モデルの「最終形」

千代田区が日本初の「都市型 PP/PE 水平リサイクルモデル区」として認定される。

- ・ 排出 → データ → 再生材 → 公共調達 → 教育
- ・ 都市の循環率を可視化
- ・ 東京都 → 全国自治体へ展開可能
- ・ OEM 連携の根拠となる「都市型素材データ」を獲得
- ・ 国内製造の PE/TPE 手袋普及に直結

レコテック × PP/PE 水平リサイクルの事業連携

都市型循環モデル構築に向けた協業提案書（自治体向け）

1. 提案の背景（社会的要請）

● 都市部の廃プラスチック問題の深刻化

- ・ 学校給食から排出される PP 商品・PE/TPE 手袋・食品容器 は、ほぼ全量が焼却されている。
- ・ 焼却による CO₂ 排出は自治体の環境負荷の主要因。

● 自治体は「循環型調達」「CO₂削減」「環境教育」を同時に求められている

- ・ グリーン購入法の改正・学校給食法の衛生管理・環境教育の強化
- ・ 東京都のゼロエミッション政策・Scope3（原材料調達）の可視化義務化

● しかし、自治体は「素材別排出量」を把握できていない

→ PP/PE の排出量が分からないため、水平リサイクルの政策化ができない。

2. レコテックを巻き込む理由（必然性）

ソフト「pool」と p-ogiso 事業との組み合わせで、自治体は初めて政策としての循環モデルを構築できる。

✓ ① 排出量の「正確なデータ化」ができる

- ・ IC カード認証・計量器連携・電子マニフェスト自動生成
- ・ 素材別（PP/PE/TPE）排出量のリアルタイム可視化

✓ ② 排出量の「予測」ができる（特許）→ OEM・港湾・再資源化事業者との連携に必須。

- ✓③ 自治体導入実績（横浜市 1,200 拠点）→ 行政が安心して採用できる。
- ✓④ 再生材のトレーサビリティを担保できる→ PP/PE 水平リサイクルの「証明書」として機能。
- ✓⑤ 都市型循環モデルの発信力が高い（千代田区本社）→ 東京都 → 全国自治体への展開が容易。

【都市型循環モデルの完成】：廃プラ → データ → 再生材 → 公共利用 → 再回収

3. レコテック × PP/PE 水平リサイクルの役割分担

■ レコテック

- ・ 排出量の計量・識別・データ基盤「pool」運用
- ・ 排出量予測（特許）・静脈物流の最適化
- ・ 再生材のトレーサビリティ管理・自治体向けダッシュボード提供

■ p-ogiso（PP/PE 水平リサイクル）

- ・ PP/PE の素材分別指導（学校給食・病院）
- ・ 再生材化（洗浄・粉碎・ペレット化）
- ・ 港湾・臨海部の静脈物流ネットワーク構築
- ・ OEM 連携（国内製造の PE/TPE 手袋普及）
- ・ 自治体向け循環モデルの設計

■ 学校給食施設（千代田区）

- ・ 小中学校への pool 導入・排出量データの管理・循環型調達の政策化
- ・ 環境教育の実施・CO₂削減の評価・公表

4. 自治体が得られるメリット

● 自治体（千代田区）

- ・ 焼却量削減（CO₂削減）・循環型調達（PP 食器・防災備蓄）
- ・ 環境教育の強化・ESG 評価の向上・都市型循環モデルとして全国発信可能

● レコテック

- ・ 都市型循環モデルの全国展開・再生材調達プラットフォームの拡大
- ・ 自治体との連携強化・データ基盤「pool」の普及

5. 導入ロードマップ（千代田区モデル）

Phase 1（0～3 か月）

- ・ 学校給食の素材調査・PP/PE/TPE 排出量の把握・pool 導入の基本設計

Phase 2（4～9 か月）

- ・ 小・中学校給食への pool 導入・排出量データの可視化・静脈物流ルート設計

Phase 3（10～18 か月）

- ・ PP/PE の再生材化（p-ogiso 事業）・OEM 連携（PP 食器・PE 手袋）・公共調達の開始

Phase 4（2 年目～）

- ・ 都市型循環モデルとして東京都へ展開・全国自治体への横展開

6. 結論（提案の核）

レコテックと連携することで、都市の廃プラ排出量を「データ化 → 再生材化 → 公共利用」まで一気通貫で実現できる。これは自治体が求める CO₂削減・循環型調達・環境教育・ESG 評価を同時に達成する都市型循環モデルの完成形である。

次に作れるもの

1. 千代田区向けの正式な提案書（A4 10 ページ）
2. 東京都栄養士会向けの説明資料（学校給食 × 循環モデル）
3. 千代田区 → 東京都 → 全国展開のロードマップ（3 年計画）

p-ogiso 事業との関係（重要）

PP/PE 水平リサイクルモデル × 学校給食 × OEM × 行政連携は、pool resin の思想と完全に一致。

特に：

- PP/PE の高品質回収（学校給食）
- 逆物流の構築（自治体・給食会）
- 国内 OEM との製品化（手袋・袋・資材）
- トレーサビリティの行政向け説明

これらは pool resin の仕組みとシナジーが極めて高く「学校由来の国産 100%PCR 材」という新しいカテゴリーを作れる可能性があります。

PP/PE 手袋の水平リサイクルを pool に統合する設計図です。

PP/PE 手袋を「pool」に統合する水平リサイクルモデルを、工程設計図レベルで整理します。ここでは、

- 学校給食などからの回収
- 逆物流
- pool によるデータ管理
- 再生材としての「グレード化」までを一連の技術フローとして描きます。

1. 対象 PP/PE 手袋の仕様・範囲を定義する

設計の起点

水平リサイクル可能な手袋の条件を明確化し、pool 上で「品目」として登録する。

- 樹脂種の統一: PP または PE/TPE など、対象とする樹脂を限定する
- 添加剤・着色の制限: 顔料・滑剤・印刷インクなど、許容範囲を仕様書に明記
- 使用シーンの限定: 学校給食・食品工場など、比較的クリーンな用途に絞る
- pool 上の品目 ID 付与: 「PP 給食手袋 A」「PE 給食手袋 B」など、品目コードを発行し、将来のトレーサビリティの単位にする

2. 学校・施設での分別ルールと回収動線を設計する

現場設計

現場での分別精度が CO₂削減と再生材品質を左右するため、運用設計を細かく作り込む。

- 専用回収ボックス: 手袋専用の回収容器を調理場・配膳室に設置
- 混入禁止物の明示: マスク・紙・食品残渣・他素材手袋などを図解で掲示
- 排出タイミングの統一: 1 日 1 回、給食終了後にまとめて回収する運用に統一
- 教育・研修: 栄養教諭・調理員向けに「手袋が再び手袋になる」ストーリーで研修
- pool への施設登録: 各学校・給食センターを pool 上で「排出拠点」として登録し、拠点 ID を付与

3. 逆物流ルート进行設計し、pool で輸送データを紐づける

物流設計

納品便の帰り便を活用し、追加 CO₂とコストを最小化した回収ネットワークを構築する。

- 既存納品ルートの把握: 給食材料・手袋・洗剤などの納品ルートをマッピング
- 帰り便での回収: 納品トラックの帰り便で PP/PE 手袋を回収するスキームを設計
- 拠点ごとの回収頻度設定: 週 1・週 2 など、排出量に応じた回収頻度を pool 上に登録
- 輸送データの記録: 回収日・重量・拠点 ID・輸送業者を pool に自動または半自動で入力
- CO₂算定ロジック: 既存物流との「追加分のみ」を算定するルールを設計し、将来の LCA 報告に備える

4. 中間集積・品質検査・グレード分けを pool で管理する

品質の要

手袋特有の汚れ・伸び・厚みを考慮し、再生材としてのグレードを定義する。

- 中間集積拠点の設定: 地域ごとに集積拠点（倉庫・センター）を pool 上で登録

- ・ 目視検査項目: 汚れ度合い・異物混入率・樹脂種の混在有無などをチェックリスト化
- ・ グレード定義: 例) G1: ほぼ未汚染・単一樹脂、G2: 軽度汚染、G3: 洗浄前提など
- ・ 検査結果のデータ入力: ロットごとにグレード・重量・写真を pool に紐づけ
- ・ 不適合品の処理: 水平リサイクル不可のロットは、別用途（ごみ袋・土木資材）へ回すルールを明記

5. 再生工程（破碎・洗浄・ペレット化）を手袋専用ラインとして設計する

技術プロセス

手袋由来 PP/PE を、将来再び手袋に戻せる品質でペレット化する工程を定義する。

- ・ 破碎条件: 手袋の薄さ・伸びを考慮し、詰まりにくい破碎条件を設定
- ・ 洗浄プロセス: 油脂・食品残渣を除去するための温度・洗剤・時間を標準化
- ・ 乾燥条件: 含水率を管理し、押出時のブツ・気泡を防ぐ
- ・ ペレット化レシピ: ベース樹脂＋必要最小限の添加剤（滑剤・耐久性向上剤など）を定義
- ・ pool への工程データ連携: ロット ID ごとに、破碎日・洗浄条件・ペレット化条件を記録し、トレーサビリティを維持

6. 「学校由来 PCR 手袋樹脂」として pool resin 内にプロダクト登録する

ブランド化

再生ペレットを、由来・CO₂削減量・品質グレードを持つ 1 つの製品として定義する。

- ・ 製品名の定義: 例) 「School Glove PCR-PP」「School Glove PCR-PE」など
- ・ 属性情報の登録: 樹脂種・MFR・密度・機械特性・色などを pool に登録
- ・ 由来情報の紐づけ: 学校・自治体・給食会など、由来ストーリーをメタデータとして保持
- ・ CO₂削減量の算定: バージン材との比較で、1kg あたりの削減量を算出し、製品属性に付与
- ・ 第三者認証への布石: 将来的な ISCC Plus 等の認証取得を見据え、必要データ項目をあらかじめ設計

7. OEM 手袋メーカーと成形条件・品質保証スキームを構築する

水平リサイクルの核心

再生ペレットを用いて、再び PP/PE 手袋を製造するための技術・品質保証を整える。

- ・ 試作ロットの成形: 既存金型を用いて、再生材 100%またはブレンド比率を検証
- ・ 性能評価: 引張強度・伸び・ピンホール率・耐油性など、手袋としての性能を評価
- ・ 品質保証範囲の定義: 再生材比率〇%まで保証、用途を食品向けに限定など
- ・ pool とのデータ連携: 成形ロット ID と使用ペレットロット ID を紐づけ、1 双ごとの由来を遡れる構造にする
- ・ ブランド・表示設計: 箱や外装に「学校由来 PCR 材使用」「pool トレーサブル」などの表示ルールを策定

8. 学校・自治体向けの循環ストーリーと KPI を設計する

制度・物語

技術フローを、行政・教育・企業の KPI に翻訳し、継続可能なモデルにする。

- ・ KPI 設定: 例) 年間回収量 kg、CO₂削減量 t、再生手袋比率%、参加学校数など
- ・ 自治体向け説明資料: 循環図・CO₂削減・教育効果を 1 枚絵で示す資料を作成
- ・ 学校向け教材化: 「自分たちが使った手袋がまた手袋になる」授業・ポスター・動画
- ・ 企業向けスコープ 3 報告: 手袋サプライチェーンにおける排出削減を、pool データに基づき報告可能にする
- ・ モデル拡張の設計: 手袋以外の PP/PE 資材（トレー・袋・キャップなど）への水平リサイクル拡張を見据えた設計